

任

---

脳死とされうる状態の患者の体温変動に関する研究

---

重症患者さんの脳機能予後改善のためのより効果的な体温管理法を検討するために本研究を計画しました。

---

生体内の脳以外の組織による体温調節関与が明らかになれば、重症患者さんのより効果的な体温管理を行い、脳機能のより良い改善につなげることが可能になります。

---

救命救急センター入院中で身体所見、神経所見、血液検査、脳波検査、頭部 CT により脳死状態と判断された患者さんの膀胱留置カテーテルから測定された体温を観察し、その変動について検討します。

---

帝京大学医学部救急医学講座

---

患者さんのデータは帝京大学医学部救急医学講座で厳重に保管・管理します。

三宅康史 (帝京大学医学部附属病院救命救急センター長、帝京大学医学部救急医学講座教授)

安心院康彦 (国際医療福祉大学熱海病院救急部教授、帝京大学医学部救急医学講座客員教授)、大貫隆広 (帝京大学医学部救急医学講座助手)、坂本哲也 (帝京大学医学部救急医学講座主任教授)